

## 「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展

当館は2022年9月末より2024年度末頃まで大規模改修工事で休館しているため、館内でコレクションをご紹介する機会がありません。そこでせっかくであればこの間、広く全国の方にご覧いただくべくコレクションの出開帳を行おうと計画されたのが「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展です。紀元前14～11世紀の中国の青銅器から近代の日本画まで、幅広い多様なジャンルの作品を収蔵する当館のコレクションの中から選ばれた優品が、東京・サントリー美術館を皮切りに、福島県立美術館、そして熊本県立美術館の全国3会場を巡回しました。

### ◆福島県立美術館

この「美をつくし展」3会場のうち、最も多い172件の作品をご紹介くださったのが、福島県立美術館です（会期：2023年3月21日～5月21日）。

“巡回展”というと、まったく同じ内容のものが同じように展示されているとイメージされるかもしれませんが、今回3会場では各館の特徴や展示面積などに応じて構成や作品数が大幅に異なるも



▲福島県立美術館「美をつくし展」チラシ

のとなりました。もし3会場ともご覧になった方がいらっしゃったら、まったく別の印象をお持ちになったことかと思えます。

福島県立美術館は福島駅から車で5分ほどの信夫山の麓の閑静な住宅街に立地する、昭和59年（1984）開館の福島を代表する美術館です。絵画、版画、彫刻、工芸などを収蔵し、なかでも大正時代の洋画家・関根正二やフランス印象派の絵画、20世紀アメリカ具象絵画などのコレクションが広く知られています。近現代美術に強い同館にふ

さわしく、広々とした空間に可動壁も利用して、当館の多様な収蔵品がわかりやすく、のびのびと美しく並べられていました。特に新鮮だったのが、



▲福島県立美術館「美をつくし展」会場風景

入口から入ってすぐの部屋に佐伯祐三などの洋画や上村松園・島成園ら近代日本画を配置し、部屋を進むごとに時代を遡っていく構成です。大画面で色彩豊かな作品で来館者を惹きつけ、江戸の美術工芸、中国書画へと移り、最後に仏教美術における祈りのかたちを紹介する流れは、まるで歩を進めるにつれ当館のコレクションの深奥へと誘うかのようなようでした。

福島県立美術館での本展のキャッチコピーは「北斎の肉筆画、松園の美人画から中国美術まで財閥コレクターが愛した珠玉のお宝、一挙公開!」。主催には美術館以外に地元のマスコミも入り、テレビや新聞などで広く取り上げていただいたほか、福島駅の新幹線降り口に大きな広告を出すという初めての取り組みも行われ、おかげさまで福島県を中心とする多くの皆様にご覧いただくことができました。リニューアルオープン後は、当館にて大部分の作品を里帰り展示する予定ですので、みなさまどうぞご期待ください。

### ◆熊本県立美術館

東京、福島へと巡回した「美をつくし展」の最後の巡回先は、九州・熊本県立美術館でした。福島から作品が大阪に戻ってきたのが2023年の5月下旬。その約3か月後に、再び作品は大阪を出発し熊本へと向かい、9月16日（土）から11月12日（日）までを会期として熊本での「美を